

看護あきた

Nursing Akita

Vol. 111

平成24年度 4号

公益社団法人秋田県看護協会会報

- 1 シリーズ看護部長が看護の想いを語る
- 2 シリーズ認定看護師 こまち紹介
- 3 認定看護管理者制度 ファーストレベル教育課程
- 5 認定看護管理者制度 セカンドレベル教育課程
- 6 一般教育研修／衛星通信対応研修
- 7 訪問看護師養成講習会
- 8 訪問看護管理者研修
- 9 看護職員再就業促進事業
- 10 助産師活用講習会
- 11 各地区活動報告
- 13 シリーズ地域看護
- 14 会員から協会へ何でもメッセージ
- 15 事務局からのお知らせ



認定看護管理者制度
ファーストレベル教育課程
閉講式



平成24年度会員数(9月30日現在) 6,863名

保健師 280名 助産師 316名 看護師 5,971名 准看護師 296名

看護部長が 看護の想いを語る



No. 8 市立角館総合病院
看護部長

菅原 智恵子さん

ならぬことはならぬ

組織に対する想い

年間およそ200万人が訪れるみちのく小京都に、昭和28年11月仙北郡内では初めての自治体病院として創設開院され今年で60年を迎える市立角館総合病院です。病院の基礎を作った諸先輩に敬意を表し、一層の努力を惜しまない事を痛感するこの頃であります。

仙北市は、一年を通じてその季節の移り変わりがはっきりしていると評判です。

春は山々の新緑と共にソメイヨシノ・しだれ桜の乱舞、夏は山車のお祭り、秋は紅葉、冬の雪の風情・自然の恵みの中で仕事をさせていただくことに感謝してやみません。又、長い冬をじっと耐えて「山車」のぶつけ合いにそのエネルギーを謳歌する気風は角館独特のものと云えます。

安永三年の「解体新書」、その解剖図は角館の秋田支藩であった小田野直武によって描かれており、このような先人を持ち「医の心」は今も昔も変わりません。

地域の皆さんに愛される病院に地域医療の充実のために、新病院移転新築を控え職員一丸となって奮闘しております。

看護に対する想い

2年前に当職を拝命しスタッフに支えられ目標に向かって航海を始めました。晴れの日もあれば雨の日もございますが皆で力を合わせ乗り越えております。

私は父方の祖父母に育てていただきました。寝たきりの祖父を自宅で看取った祖母が私の看護の手本であります。祖母は祖父のためにすり鉢で全ての食材を搗り片栗を加え一口一口咀嚼を促しながら与え、布のオムツを柔らかくするために揉み、床ずれが当たらないよう蚊帳を敷き身体の向きを変え、晴れた日は側に寄り添って太陽の光を入れ、イチニ・イチニと声をかけながら手足を動かしていました。ご近所の人たちは外に出れない祖母を気の毒がり集い励まして下さいました。

人は支えられ生きていくこと・そして祖父を看る祖母の無償の愛の眼差しと笑顔が私の「看護に対する想い」であります。

社会に対してアピール

地域の人々の病院に対する期待とは何か！必要とされる病院であるために60年前の創立時に立ち戻り地域の皆様に信頼される看護を提供して参りたいとおもいます。

伝えたいこと(メッセージ)

1月から始まった大河ドラマ「八重の桜」、従軍看護婦になった八重の「ならぬことはならぬ」この言葉は私たちの看護の心に響く一節であります。

「こまち」紹介

毎回、看護の専門性をたゆみなく探求し続ける認定看護師さんを紹介します。

三浦 京子さん

こまち File No.25

秋田大学医学部附属病院
緩和ケア認定看護師

今取り組んでいること

現在緩和ケアチームに所属し、主にがん患者とその家族を対象とした院内コンサルテーション活動に携わっています。疼痛等の身体症状の緩和の他に、精神的支援や家族ケアなど依頼内容は多岐に渡っています。このような緩和ケアに関連した困難な問題に病棟スタッフと共に対処し、患者・家族のQOL向上を目指すだけでなく、日々患者・家族と向き合っている病棟スタッフと双方向のコミュニケーションを図りながら心理的サポートを行い、医療者のQOL向上も目指して日々奮闘しています。

皆と一緒にがんばりたいと思っていること

当院には7分野11名の認定看護師が所属していますが、認定看護師間の連携強化・院内に向けた活動の拡大を目的に、平成23年度より「認定看護師の会」を立ち上げました。異なる分野の認定看護師が連携し専門性を発揮することで、より看護の可能性が広がっていくと思います。もっと院内のスタッフに認定看護師の存在や役割を知ってもらい、活用してもらえるように活動を発展させていき、当院の看護の質の向上に貢献していきたいと思っています。



木元 優子さん

こまち File No.26

市立秋田総合病院
がん化学療法看護認定看護師



今取り組んでいること

私は外来化学療法室の専従看護師として活動しています。がん化学療法はがん患者さんのその後の人生や生活を充実して過ごすための大切な治療です。以前と比べて副作用が容易にコントロールできるようになったとはいえ、決して楽な治療ではありません。そのため、患者さんが治療のメリット・デメリットを良く理解し、自分の意思で選択しなければ続けることは難しいと考えます。外来化学療法を受ける患者さんには事前にオリエンテーションを行い、患者さんと話す時間を設けています。その後の治療中もなるべく患者さんと会話するように心がけています。スタッフと共有しながら必要な

際には、医師や外来看護師、病棟看護師、薬剤師や栄養士、MSWなどと協力しながらチームで関わるようにしています。患者さんとその家族が不安の少ない快適な環境で治療が受けられるように努力しています。

皆と一緒にがんばりたいと思っていること

今までは外来化学療法室中心で活動しておりましたが、今後は院内全体のがん化学療法看護についての理解を深められるように活動を行いたいと考えています。がん看護リンクナースの協力を得て、院内全体で連携の取れる環境作りに努めております。



認定看護管理者制度 ファーストレベル教育課程

教育目的

- 1 看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度の習得を目指す。
- 2 看護を提供するための組織化並びにその運営の責任の一端を担うために必要な知識・技術・態度の習得を目指す。
- 3 組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析する能力の拡大を目指す。

実施内容

- 1 教育期間／平成24年5月25日～8月29日(150時間)
- 2 受講者数／33施設 65名
- 3 受講者の職位／看護師長3名, 副看護師長・相当職8名, 主任・相当職40名, 職位なし14名
- 4 講義についての学び・感想の一部紹介
 - 目指す管理者像として、常に対話を怠らずの言葉の背景を考える、看護とは何かを常に問い続ける、誰かのために全力を尽くす、患者に寄り添い患者のための看護ができることを学んだ。
 - 看護情報の倫理、プライバシーに関する法律やIT関連の事項、守秘・管理する義務のある多くの情報についての知識や理解を深めていく必要があることを学んだ。
 - 看護管理の原理・原則を学び、自分の目指す看護管理者像を具体的に描くことができるようになること、看護管理観を養い成長させることに意義があることを学んだ。
 - 看護が専門職であるという魅力を後輩や新人に伝えていく事が看護管理者としての役割であることを学んだ。
 - 専門性を発揮するためには、常に学び続けなければならない。
 - <切れ目のない医療やケアを提供する。>ための課題を見出した。
 - 秋田県内に「看護に熱い人たちがたくさんいることを知った。
 - 「看護の素晴らしさ」をスタッフと共有しながら成長していきたい。
 - 改めて自分自身の看護観と向き合い、原点に立ち返ることができた。
 - 私たちが行っている活動のすべてが看護サービスであることを学んだ。
 - グループワークを通してそれぞれの意見を交換することにより学びを深める良い機会となった。

受講者の感想

「ファーストレベルで学んだこと」

5月25日からファーストレベル教育課程が始まりました。年齢も立場もそして職場の状況もそれぞれ違う65名。それぞれが受講の目的とともに、どんな日々になるのか、これから何が始まるのか、想像のできないことに、緊張しながらその日を迎えたのではないのでしょうか。受講前の私は、「管理」という言葉に抵抗を感じていました。

「管理する」それは威圧感と大きな責任をイメージしていたのです。しかし、学んだことが少しずつ繋がっていくと、今まで私たちは管理されていたのではなく、守られていたのだと感じました。フローレンス・ナイチンゲールに始まり、幾多の先人達が、看護とは何か、看護専門職とは何かを問い続け、その時代や法律と向き合ってきたこと、そして数えきれない程の先輩達はその心を引き継ぎ、前進させ、現代の私たちに伝えようとしていること。その大きな心に守られていたのだと思いました。不安だった私たちに、どの先生も、管理者としての知識や責務を教えながら、同じ「看護」を生業としている後輩達に伝えたい、成長してほしいという思いがあって、緊張する私たちを和ませ、とても優しく温かく教室全体を包んでくれていたように感じました。そして、研修が進むにつれ、今までの師長、先輩や同僚、そして患者さんとのことが次から次へと頭に浮かんできて、今まで私たちは、出会った多くの方々から育てて頂き、歩んできたのだと思いました。

私の受講時の目標は、責任という言葉に恐れて決断できない自分を変えたいということ。ここで知識を得て、管理者として、また職業人として決断し、リーダーシップをとっていけるようになることが私には必要だと思っていました。しかし今は、自分がどんな看護がしたいのか、看護師として人間としてどうありたいのかをしっかりと見つめて、行動できるようにな

羽後町立羽後病院
鈴木智恵子



ることが大切だと思っています。

神奈川県立保健福祉大学の加納加代子先生は、著書の中で教育について「何を教えるかではなくて、何を残せるかが重要」と語っています。今回の研修を通じて私が考えたのは、教わる者は教えて頂いたことから、何を感じ、何を受け取るかが重要なことではないのだろうか。講義の中で先生方は、様々な知識とともに、私たちの心に残る言葉とそしてエールを下さいました。その言葉とともに、自らの理念と目標をもって前を見つめる凛とした姿が印象に残っています。65名それぞれ感じたこと、受け取ったことは違うかもしれませんが、これからの私たちにとって、歩み続けるための灯りを点してくれたのだと思います。そして、今まで守って頂いた立場から、今度は守っていくという自覚が必要なのだと思います。ファーストレベルは管理者としての一步を踏み出すとともに、看護職としての新たな出発となる機会でした。そこからどう歩んでいくのか、まだしっかりと見えていませんが、これからも、日々の出来事に悩みながらも、学び続けていくことの大切さを教わったと思っています。

はじめは戸惑いと不安ばかりでしたが、最後には研修が終わってしまうのが、とても寂しくなりました。それは、研修生たち全員で作出した教室の空気がとても心地良かったからです。ひとりひとり個性があって、それを認め合い刺激し合い助け合いながら、特別な空間になっていったと感じています。研修中の懸命な姿はもちろんですが、オフになった時の他愛ない会話や表情、酒を酌み交わしながら語ったこと、研修で65名が出会えたことに感謝しています。それぞれ別々に看護職として活動するわけですが、これからも仲間ですよ。

最後に、今回の研修のためにご尽力くださいました全ての講師の方々、看護協会の方々、学ぶための環境を整えてくださった職員の方々、そして教育担当として私たちをいつも支え、その笑顔で癒してくださった工藤先生、研修参加に御協力下さった職場や関係者の方々に感謝するとともに、これから先も、未熟な私たちに御指導下さいますようお願い致します。

まとめ

平成5年の開講から20年目を迎えました。今年度で1352名が修了しています。

次年度も多くの皆様の受講をお待ちしております。

～ 今後のご活躍を、心から期待しております ～

専任教育担当 工藤 一子 記

第5期生

(平成23年度修了生)

認定看護管理者制度 セカンドレベル教育課程修了者

フォローアップ研修実践報告会

日 時／平成25年2月8日(金)午前9:30～16:00

場 所／看護センター 第一研修室

ねらい／認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程での学びを
実践で活用している状況を紹介しあい、マネジメント能力の
更なる拡大をめざす。

参加者／平成23年度修了者24名

受講者の感想(一部紹介)

- 自分が知らないことが大きすぎてハードルが高かったが、看護管理していくうえで大切な4本柱等多くの事を学んだ。
- 職位が変わり、実践を通してセカンドレベルで学んだ事が分かってきた。
- 皆さんと出会えたことがうれしく、支えられ感謝しています。
- セカンドレベルで学んで、自病院の経営、看護を改めて知ることができた。



～ 今後のご活躍を、心から期待しております ～

専任教育担当 工藤 一子 記

認定看護管理者制度 セカンドレベル 教育課程

第6期生



平成24年度セカンドレベル教育課程修了者

教育目的

1. 保健・医療・福祉分野における看護組織の第一線監督者または中間管理者としての基本的役割を理解し、職責を果たすために必要な知識・技術・態度の習得を目指す。
2. 施設の理念ならびに看護部門の理念との整合性を図りながら担当部署の看護目標を設定し、その達成を目指し、看護管理過程が開ける能力の拡大を目指す。
3. 地域特性を踏まえたヘルスケアサービスの現状を理解し、課題を見出すことができる。

教育期間

平成24年9月4日～11月20日(180時間)

受講者数

18施設31名

受講者の職位

副看護部長・相当職：1名、看護師長：17名
副看護師長・相当職：6名、主任・相当職：6名、職位なし：1名

講義内容からの学びと感想の一部紹介

- ### 1 医療経済論

 - 講師の「セカンドの受講生は現場を変える改革者。現場監督だ。」という言葉が印象に残った。
 - ディベートを体験して、さまざまな場面で合理的意思決定・説得・交渉術などロジカル・シンキングを意識していきたい。
- ### 2 看護組織論

 - 職務規程作成の演習を通して自施設の看護師長の役割の項目に不足な点に気が付いた。
 - 管理の視点から、倫理的組織風土を構築していく事の方策について深く学ぶことができた。
 - 看護管理者の役割も在宅での生活を見据えた入院時からの支援が重要な位置づけになっていることを改めて認識させられた。
 - 「Evidence」に質があることを初めて学んだ。
 - ミッション・ビジョンで戦略を立て、確認しながら進む重要なものであることを再確認した。
- ### 3 人的資源活用論

 - 演習を通して、教育システムがあっても目的がわからなければスタッフは、〈やらされ感〉を感じて、効果を発揮しないことが分かった。
 - スタッフが安心して働ける職場環境にしていくために、労務管理の知識を得る努力をしたい。
 - 自分自身のキャリアを振り返ることができ、自分への愛おしさが生まれた。
 - 講師の「ストレスが増強しないためには、問題を解決するしかない」の言葉に『やるしかない。』という意志が高まった。
- ### 4 情報テクノロジー

 - 図表の見方が苦手で苦痛だったのが、自由な発想で見ることを学んで理解できた。
 - 大学院を見学し、「素晴らしい」と感動し、そのような知識・技術・環境を羨ましく感じた。
 - パソコン操作のポイントや多くのスペシャルな技を学び、学ぶことの楽しさを実感した。

まとめ

開講から6年目、今年度で172名の修了になります。平成25年度も多くの方の受講をお待ちしております。研修を通して、多くの学びをし、何にも代え難い、宝物を得たと想います。

～ 今後のご活躍を、心から期待しております ～

専任教育担当 工藤 一子 記

平成24年度 一般教育研修

カテゴリー	テーマ数	受講決定者数	受講者総数
新人教育	1	47名	47名
ジェネラリスト教育	21	2828名	2710名
管理者・指導者育成のための教育	5	344名	332名
合計	27	3219名	3089名



今年度も多くの皆様にご参加いただき、一般教育研修会を開催できました。ありがとうございました。
皆さまには、私どもの研修にご支援とご協力をいただいておりますことに、心より深く感謝申し上げます。教育研修へのご希望のテーマ、講師等がありましたら、ご来場の際はまたは事務局までお申し出ください。
来年度の一般教育研修は、他事業との関係で、20テーマの開催を予定しております。皆さまのご参加をお待ちしております。

平成24年度

衛星通信対応研修

日本看護協会 神戸研修センター主催



	研修テーマ	開催日	定員	受講者数
1	フィジカルアセスメント(基礎編) ～明日からの自信につなげる～	7月 12・13日	60名	66名
2	高齢者の理解と認知症患者への対応	8月 9・10日	60名	35名
3	法律・制度・政策の最新情報とマネジメントの視点	10月12・13日	60名	23名
4	災害医療と看護(基礎編)	11月 8・9日	60名	103名
5	生活をつなぐ退院支援(基礎編)	12月14・15日	60名	63名

S-QUE研究会 日本臨床看護マネジメント学会主催

	研修テーマ	開催日	定員	受講者数
	看護必要度評価者院内指導者研修	6月3日	60名	60名
		12月9日	60名	59名

インターネット配信研修

日本看護協会 看護研修学校主催

	研修テーマ	開催日	定員	受講者数
	働き続けられる職場づくり ～看護労働のシフトワークの改善～	12月11日	60名	51名

次年度の開催テーマ・日程・申し込み方法等は、平成25年度教育計画冊子に掲載いたしますので、ぜひご覧ください。
お申込みをお待ちしております♡

訪問看護師養成講習会

1. 目的

- 1) 在宅ケアを必要とする人とその家族に対して質の高い看護を提供するために、地域の特性や生活状況をふまえ、最新の知識技術を習得する。
- 2) 在宅ケアチームの中での役割を認識し関係機関との連絡調整ができるような訪問看護従事者としての資質を育成する。

2. 実施内容

- 1) 開催期間・時間数：平成24年5月11日～9月3日（延べ25日間）・153時間
- 2) 受講者数：15名、 修了者数：14名

講習会終了日の
受講者の皆さん

まとめ

(受講者のアンケート結果から)

(1) 講習会に関する期待(複数回答)

内容	人数
訪問看護の知識習得	14名
介護保険・ケアマネジメントの知識習得	6名
実習による他施設の理解	7名
他の職場の人との交流	5名
その他(在宅看護を実際に体験する為)	1名

(2) 目標の達成

内容	人数
達成できた	6名
だいたい達成できた	9名
ほとんど達成できなかった	0名
達成できなかった	0名
どちらともいえない	0名

(3) 今後の看護実践への活用

内容	人数
活かすことができる	15名
活かすことができない	0名
どちらともいえない	0名

(4) 講習会後の研修開催の希望

内容	人数
希望する	13名
希望しない	1名
その他	1名

受講者さんの声(一部紹介)

- この講習会に参加して自分の意識がこんなに変わるとは思わなかった。「訪問看護」という形で開催されているが、看護全般においてとても勉強になった。また、1回の研修と違い、長期にわたって同じ受講者と参加できることも大きな意味があった。
- 最新の医療の現状を知ることができ、いかに自分が最近の動向に無頓着だったかが分かった。今後も自分のスキルアップをすべく、看護協会の取り組みにも目を向けながら、仕事をしていきたい。

今年度は15名の受講者で講習会を開催しました。受講者各々、活動する場は違いますが、153時間は、多くの出会いと刺激、気づきが生み出された時間だったようです。

在宅医療または、訪問看護師の役割について一緒に学んでみませんか。

♥ 来年度は、修了者の皆さまはじめ、在宅看護を実践している皆さまに講義を一部公開し、さらなる看護の質向上に努めていきたいと考えています。

看護職の皆さまの受講を来年度もお待ちしております。

訪問看護管理者研修

目的

訪問看護事業所の管理者として訪問看護ケア技術の向上や安全管理、スタッフの人材管理を含む経営技術等について理解を深め、経営強化を図るとともに訪問看護の質の向上に必要な能力を身につける。また、訪問看護管理者のレベルアップを図る。

研修日程

平成24年8月25日(土) 8月26日(日) 9:30~16:30

受講者

24名 (修了証書授与23名)

講師

一般社団法人 オフィス萩原代表理事 萩原 正子氏
アーセプト税理士法人 日本公認会計士協会準会員 鈴木 森氏

内容

【8月25日、26日 9:30~12:30】

在宅医療・訪問看護制度と動向について、診療報酬改定のポイント、運営の変化や、事例で考える訪問看護の役割について、訪問看護ステーションでの人材育成と管理、業務の中でできる教育、具体的な教育システムを考える。訪問看護ステーションの実践的経営、訪問看護の利用促進等について

【26日 13:30~16:30】

訪問看護ステーションにおける基本的な経理と財務、会計・経理の基礎、財務諸表分析、貸借対照表、損益計算書の作成
訪問看護ステーションの例題から学習
会計から黒字化のための方法検討等

アンケート結果(回収率96%)

1. 受講動機、受講のきっかけ(複数回答)

内容	人数
研修タイトル内容に興味がある	16
次期訪問看護管理者になる	1
訪問看護ステーション開設予定	2
上司・同僚のすすめ	8
自部所の事業評価	7
自身の課題達成	11
その他	2

2. 役職

管理者:16人 スタッフ:3人
主任:2人 補佐:1人 その他:1人

3. 経験平均年数

看護経験平均年数	24.5年
訪問看護経験平均年数	9.5年
訪問看護管理者経験平均年数	6.4年

4. 研修に期待すること(複数回答)

内容	人数
訪問看護管理者としての資質向上	14
訪問看護の質の向上	15
訪問看護管理者に必要な最新情報修得	18
他の職場の人との交流	13

5. 今後の訪問看護管理に活かすことができるか

活かすことができる	23人
いいえ、どちらでもない	0人

6. 目標達成について

達成できた	3人
だいたい達成できた	20人
達成できなかった	0人

7. 各担当講師の講義で印象に残ったこと、感想

萩原講師

- ポートフォリオの活用について実践と成果まで実施してみたいと思う。
- 管理についてもデータに基づいて計画し実践、評価のサイクルで行い、成果につなげていく科学的根拠も必要であることがわかった。
- 訪問看護を周知させるための工夫をグループワークで出た内容からヒントを得ることができた。主に今後のステーションの人材育成に関し参考にしていきたい。

鈴木講師

- 利益を何%上げるか具体的に考えていきたいと思う。またターゲットエリア(市)について人口動態を知ることの重要性を知った。
- 実際電卓を使って計算することで計算の仕方がわかった。
- 数字はなかなかわかりにくいですが、細かく説明され多少の理解ができた。
- 訪問看護ステーションは変動比率の少ない構図となっているため、事業収入を増やすことが大事だと認識できた。

報告:事業部 宇佐美正子

看護職員

再就業促進

事業実務研修

目的

保健・医療・福祉を取り巻く状況の変化により、看護職員の確保・定着が緊急の課題となっていることから、資格を持ちながら看護職員としての業務に従事していない潜在看護職員のうち、医療機関に再就業するため看護技術等を身に付けたいという意欲のある者に対し、病院での臨床実務研修等を実施し、再就業の促進を図る。

研修日程・開催場所・内容

- 講義研修**
- 開催日時: 平成24年10月31日(水)、11月1日(木)
 - 開催場所: 秋田県庁第二庁舎 4階災害医療対策室
 - 講師: 由利組合総合病院 看護部長 佐藤 田鶴子
市立秋田総合病院医療安全推進室 副参事 佐藤 りつ子
秋田組合総合病院 感染管理認定看護師 水野 住恵
公益社団法人秋田県看護協会 会長 烏 トキエ
- 受講者数** 5名
- 実務研修**
- 研修期間: 10日間(60時間)
 - 受講者: 4名
 - 平均年齢: 38.5歳

研修施設	研修期間	参加人数
秋田緑ヶ丘病院	11月26日～12月7日	1
土崎病院	11月26日～12月7日	1
市立秋田総合病院	11月8日～11月29日	1
秋田県立脳血管研究センター	11月8日～11月27日	1

受講生・病院の声

受講生が希望する研修内容

現在の看護の状況、感染対策、採血・点滴などの医療行為の実際、急変時の対応、最近の医療器具・医療機械、与薬、輸液管理電子カルテの流れなど

アンケート結果(受講生)

研修会の受講動機について(複数回答可)

内容	人
知識・技術への不安	3
最新の医療・看護の状況知りたい	3
再就業の準備のため	0
再就業できるかの判断材料	3

再就業への自信について

できた	1人
大体できた	2人
あまりできなかった	1人

感想・意見

- 病院の雰囲気になれることで、再就職を前向きに考えられるようになった。
- 再就職へ向けての心の準備ができた。
- スタッフから最近の看護・医療について学ぶべき事が多く、楽しく研修ができた。

アンケート結果(病院)

研修期間10日間	適当である100%
研修時間1日6時間	適当である100%

研修受入体制: 1人(2施設) 2人(2施設)

再就業の自信: だいたいできた 100%

看護の基本的知識・技術:

できた	2施設
大体できた	2施設

感想・意見

- 自施設の職員採用にこの機会を有効に使えるようにしていくべきと実感した。
- 指導したスタッフにとってもよい経験となった。今後も協力していきたい。

助産師 活用講習会

【目的】

主に潜在助産師等の再就業促進を図り、また過酷な労働を強いられている産科医師の負担軽減を図るため、潜在助産師等が高度かつ適切なケアを行うことができるよう、知識や技術の向上のための講習会を開催する。

【研修対象者】

助産師の資格を持ちながら就業していない助産師
分娩を取り扱う県内の病院または診療所に勤務する助産師

【研修日時】平成24年12月2日(日)10:00~16:00 【受講者】35名(非会員4名含む)

【会場】秋田県看護協会 第一研修室

【ねらい】超音波検査の見方を学び、母子の安全に関する保健指導に活用する。

【内容】

●講 義・実技演習

●情報提供:助産師職能委員長 荒川きよみ

「助産師外来の産後1ヵ月検診における現状と課題」

- 講師:秋田大学医学部附属病院 助産師 工藤美穂子氏・高橋菜穂子氏
- 内容:助産師外来に取り組んだ背景、助産師外来の目的や実際、医師への報告基準 エジンバラ産後うつ調査票の活用、助産師外来の流れ、アンケート結果など



「超音波検査の保健指導への活かし方」

- 講師:秋田大学医学部附属病院 産婦人科医師 三浦広志氏・菅原多恵氏
- 講義:超音波検査の原理、妊婦が超音波検査に求めているもの、助産師にとっての利点やデメリット、超音波と出生前診断等
- 演習:2台のファントムを使用し、2人の医師が胎児計測方法を個人指導した。

【アンケート結果】 アンケート回収率:97%

●参加者の背景

●勤務施設 病院 34人 (100%)

●勤務場所 産婦人科病棟 16人 (47%)

他科との混合 17人 (50%)

外来 1人 (3%)

●年 代 20歳代 17人 (50%)

30歳代 8人 (24%)

40歳代 5人 (15%)

50歳代 4人 (12%)

●参加動機 自分の意思 18人 (53%)

上司・同僚の勧め 14人 (14%)

その他 2人 (6%)

●助産師外来の取り組みを活用できますか

できる 31% まあまあできそう 8%

やってみたいができなそう 58%

できない 3%

●職場で実際に助産師が超音波活用しているか

活用している 21%

活用していない 79%

●超音波検査の講義・実技演習について

講義・実技

分かりやすい 講義50%・実技65%

まあまあ分かりやすい 講義47%・実技27%

少し分かりにくい 講義3%・実技3%

●意見

エコーのポイント(見る・妊婦に伝えるポイント)が分かった。

分娩の経過中に臍帯巻絡や回旋異常などのアセスメントに使用してみたい。

解説付きの実技で良かった。

ファントムと実際の胎児は違うため、だいたいの感覚で行ったが講義内容と結びついた。

【総括】 助産師活用講習会も今年度で幕を閉じることになった。超音波検査の保健指導への活用は平成19年から開始し、実技演習は20年から行っている。その間の受講者は5年間で延べ146名である。研修の成果を期待したい。

能代・山本 地区支部

能代山本地区支部長 工藤 あつ子

「ふれあい看護体験」

能代山本地区支部では、山本組合総合病院、秋田社会保険病院、能代山本医師会病院の3施設のご協力のもと、管内の高校1年生を対象に夏休み1日目にふれあい看護体験を毎年実施しています。今年の参加人数は男子2名を含む23名でした。

初めて白衣を着た学生はうれしさを隠しきれない様子で笑顔がみられたのがとても印象に残っています。この日ばかりは病院内は活気に満ちていました。

体験内容は、手洗い、血圧測定、手浴、足浴、車いす移乗、赤ちゃんを抱っこ、リネン交換などです。初めて実施する手浴、足浴も指導を受けながら積極的に参加し、患者さんから話しかけられるとうれしそうに答えていました。この経験を通していかにコミュニケーションが大切かを実感したこと、また看護師になりたいという

気持ちが一層強くなったと話していました。一人でも多くの学生が看護師になるための足がかりとなることを願いながら今後もこの活動を続けていかなければ



ならないと思っております。ご協力いただいた皆さまに深く感謝申し上げます。

「まちの保健室」

能代市では、「がんなどの生活習慣病や、心の健康づくりに関する啓発普及活動のひとつとして健康展を開催し、広く市民に、心身の健康づくりについて考える機会を提供する」目的で毎年「のしろ健康21・健康展」を開催しています。さまざまな分野が協賛しており地区支部も「まちの保健室」を開催しています。主な内容は血圧測定、骨密度測定後の健康指導です。私たちが担当した方は225名で市民の健康に対する意識の高さが伺われます。今後も協力していきたいと思っています。



横手 地区支部

横手地区支部 小西 美喜子

1月16日 地区支部集会終了後に、笑いヨガ認定ティーチャー 伊藤晴美氏を講師にお迎えし「笑いヨガで心も身体も元気に」と題し会員研修会を開催しました。笑いヨガは、インドで発生し現在では72カ国にひろがっている「笑いの体操」と「ヨガの呼吸法」を組み合わせた運動法であること、作り笑いであっても、おかしいと感じて笑っても身体的・精神的な効果は変わらないことが科学的に実証されていて

- ・有酸素運動により脳への酸素供給量が増加し脳が活性化する。
- ・セロトニンが分泌されストレスが軽減する
- ・免疫力が高まり、ガン細胞を抑制するNK細胞を増やす
- ・糖尿病の血糖値を下げる
- ・血圧や脈拍が下がり、リラクゼーション効果が得られる



北秋田 地区支部



北秋田地区支部長 中嶋 美枝子

「一日看護学生」

平成24年7月27日(金)「看護体験をとおして医療や、看護への関心と理解を深める」という目的で開催し、秋田県立北鷹高校生徒13名が参加しました。北秋田市民病院内の見学や、グループに分かれての看護体験、看護部長の講話、進学についての説明等が行われ、座談会では殆どの生徒が「看護師への道」を考えているという発表がありました。毎年、体験希望内容で一番多いのが「赤ちゃんのいる病棟」です。今回も男子生徒の参加があり、看護師の姿だけではなく「将来のイクメン」も想像できますね。



「看護研究発表会」「親睦交流会」

平成24年11月10日(土)北秋田市民病院において「当院における地域連携室の活動」:北秋田市民病院「北秋田市における訪問看護ステーションの現状とこれから」:訪問看護ステーションはあと「救急外来における家族参加型エンゼルケアの効果」:北秋田市民病院 以上3題の発表を行いました。

その後、エンジョイアクアクラブ、スポーツインストラクター浅利ゆみ氏を講師に「ボクササイズ」というレクレーションで、会員の親睦を図りました。自分達の姿を見ては大声で笑い、こちち良い汗を流し、楽しいひと時を過ごしました。

当地区支部は、会員数が143名と県内で最も小規模のと



ころです。又、総合病院は北秋田市民病院1つだけという事で、活動は小さな事になってしまいますが、「顔と顔が見えるこの地域の良さ」を最大限生かした協会活動にしていければと思っています。

・顔の表情が鍛えられ、しわなどアンチエイジング効果がある等々の効果があるというお話を伺いながら、「ハッ・ハッ・ホ・ホ・ホ」「いいぞ・いいぞ・イエー！」と「手拍子」や「深呼吸」「体操」をまじえながら、参加した60名は大きな声で笑いあいました。最初ははずかしいと思いつつも他の人が笑っている姿を見てだんだんと本当におかしくなって笑いの連鎖がひろがっていきました。1時間という短い時間ではありましたが、「笑いヨガ」を行うことで心身ともに元気がみなぎってくるのを実感できました。晴美先生は、簡単に出来て効果的なことは、朝に鏡を見て笑うこと、笑顔をつくることと教えてくださいました。みなさんもお試しください。あらためて「笑い」の大切さを実感するとともに、心も身体も元気になる楽しい時間を過ごすことが出来ました。



地域

看護

地域を支え、
つなぎあう
看護職の活動を紹介します。

鹿角市「うみたの」講座中
「うみたの」：産んでから楽しく育児ができるように
妊娠中に育児生活イメージ作りクラスです。
産後の地域の子育て支援者との
出合いの場になっています。



「助産師の活動」 ～地域で活動する助産師の姿～

助産院 イスキア

助産師 菅原 光子さん

2007年7月9日に、秋田県北では唯一の助産院イスキア(保健指導)を開業しました。

施設では支援が求められにくいと感じた産前産後の母親の思いが集まってきます。直接お会いして支援させていただくことの他、遠隔地に住む方からのメール相談や電話にも応じております。妊娠中の相談はじめ、産後は母乳育児支援が主になっています。この支援は2002年に認定された国際認定ラクテーション・コンサルタント(母乳育児をしたいお母様へエモーショナルサポートのもとエビデンスに基づいた情報提供と支援をしていく専門者)の立場で活動しています。妊娠中に母乳育児の事を知りたい(特に経産婦の方は今回こそ母乳で育てたいという思いを抱いて)・吸えない・出ない(出ないような気がする)・吸われて痛い・混合だけど母乳にしたい・ミルクを最小限にして混合で育てたい・詰まった・乳腺炎・働きながらの子育て・卒乳などなどです。ミッドワイフショッピングの末に訪れる方もいます。施設には母乳育児支援外来もありますが、季節や天候的に出歩けないとか入院中の支援の混乱で適切な支援を求めている、県外で出産された後に里帰りされてその後の支援を求めている、という方がたからも声をかけていただいております。時間や曜日に縛られないゆえに突然のトラブルにも対応できます。

保健センターの嘱託で主に産後1ヶ月健診終了後の母子訪問や低出生体重児の訪問を担当させていただいております。児の栄養方法はじめ抱っこ法・寝かせ方、児の泣きへの対応などの育児スキルの支援や児の成長発達を見ています。

その他、小中高校での思春期教育はじめ、行政や地域

の子育て支援センター・子育てサークル主宰者との連携で子育てに関する講座開催、5校で助産師学生の母乳育児講義担当、母乳育児支援セミナー開催、非常勤でBFHの施設での当直…助産師が保健指導開業をしますと勤務時代のような安定した経済的な基盤がないために、勤務時代以上に切磋琢磨をしなければならないのが保健指導開業助産師の現実ですが、助産師人生の中で今が一番楽しく活動できているのです。

私の活動のキーワードは家族支援です。少子化の中で、育児雑誌やSNS(インターネット情報)による孤育てをせずに、人と人とのつながりの選択肢の一つでありたいと願っています。助産師midwife=with women、女性と共に・家族と共に、母親が自信を持って育児ができるように、施設・行政・地域の連携をもってこれからも活動していきます。



2012 ハチラジde Oh! DATE
ラジオ番組に出演。自宅の魔女人形と一緒に。
(首助産師は魔女と言われていた!)

看護協会への

なんでもメッセージ

看護協会へのご意見・ご要望、看護あきたで取り上げてほしい話題・お知らせ等々、
なんでも結構です。ご自由に記入して、FAXで送信してください。

Large empty area with horizontal dashed lines for writing a message.

病院・医院名	
FAX	部署・部門名

公益社団法人 秋田県看護協会

FAX.018-835-9522

第44回 日本看護学会－成人看護Ⅱ－学術集会 案内

学術集会テーマ **支え つなぐ 看護の未来**

- 1 開催期間 平成25年10月3日(木)～4日(金)
- 2 開催場所 秋田県秋田市
秋田県民会館 にぎわい交流館AU 秋田県民会館ジョイナス
- 3 定 員 1,800人



ポスター デザイン・作成：秋田協同印刷株式会社

今回掲載された文章や写真、個人名・団体名については個人情報保護法の下、他の目的には一切使用いたしません。

編集後記

雪の季節から、ようやく春の訪れを感じる季節となりました。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。看護あきたも、今年度最後の発行(4号)になりました。公益法人となり、委員会も広報委員会となり、旧看護の日委員会と広報出版委員会が一緒になって、広く積極的に広報活動をするために、頑張ってきました。看護あきたでは、看護職の頑張りを思いなども伝えることが出来たと思います。今後も、活発な広報活動・看護職を広くアピールしていくために、会員一同頑張っていきたいと思っています。どうぞ、ご支援よろしくお願い致します。(記・佐々木順子)

看護あきた Vol.111 平成24年度 4号

Nursing Akita



発行 日／平成25年3月8日

発行 責任者／公益社団法人 秋田県看護協会 会長

発行 所／公益社団法人 秋田県看護協会 秋田市千秋久保町6-6 Tel 018-834-0172

デザイン・制作／秋田中央印刷(株) 秋田市新屋豊町6-43 Tel 018-823-7577

印刷 所／秋田中央印刷(株) 秋田市新屋豊町6-43 Tel 018-823-7577